平成29年度第2回印西市教育振興基本計画策定委員会　会議録

1. 日　　時　　平成29年11月27日（月）　午後2:00～午後3:00まで
2. 場　　所　　印西市役所　41会議室
3. 出席委員　　福留強委員（委員長）、青木和浩委員（副委員長）、岡敬一郎委員、
篠原英光委員、池亀節雄委員、桜井繁光委員、板倉三郎委員、
西田裕子委員、五十嵐靖宏委員、青柳豊子委員
4. 欠席委員　　なし
5. 事 務 局　　大木教育長　山﨑教育部長
教育総務課　高石参事、小那木主幹、吉林副主幹
6. 傍 聴 者　　なし
7. 議　　事　　(1) 印西市教育振興計画（案）について
(2) その他
8. 議 事 録　　要点筆記

以上

議事（1）

～事務局より（1）に関する資料を説明～

委　員：31頁の文化芸術の部分、検討委員会の修正点が「注1、2の本市独自の取り組み以下を削除し、次のように修正する」とある。「以下を削除し」という表現がどういう意味なのかわかりにくい。

事務局：最初の意見で、注2の最後の部分「開発予定」がいらないのではないかという意見があった。事務局で検討した結果、この表現がわかりづらいという結果に至った。実際にもう少しわかりやすい表現に変えた方が良いだろうと、事務局提案で変更させていただきたいと考えた。「ライフステージに応じた知徳体の総合型の学習を市民の一生涯を通じて支援する学習環境」とは一般的にはわかりにくい。そこで「幼児期から高齢期の一生涯において時期に応じた知徳体の学びを総合的に実践していくという教育」と定義させていただいた。注2も「総合型プログラムもその人の個性や能力に基づいて、各々の段階に応じて適切な知徳体の学びを組み合わせたプログラム」という表現にさせていただいた。

委員長：その中の「幼児期から高齢期の一生涯において」という文言は2番目にもかかるとみてよいのか。

事務局：ライフステージという表現は段階に応じてという意味で使用する。

委　員：注2で書かれている個性や能力はどこまで含まれているのか。捉え方によって異なる。

事務局：個々の状況を具体的に表現するのはなかなか難しい。個性に基づき個人に一番向いているもの、能力を組み合わせて提案していく形になると思う。学校などでは先生が個人の個性や能力を把握した上で取り組みをしている。それを一般でも行っていきたい

というプログラムで捉えていただきたい。

委　員：個性や能力を尊重して、ということで良いのではないか。「基づき」となると、どこまで含まれるのか難しくなってしまう。

委　員：書く側からすれば当然様々なものが用意されていて、その中から選ぶことができる。あるいは提案をさせていただくというニュアンスだと思う。しかし、受け取る側からすると、自分のことが決めつけられる、能力を判断されると捉えると非常に嫌だと思う。個性や能力は学校でも問題になっている点で、それが何なのかがやはり気になる。身体的なものも含まれてくると問題になることはないのか。事務局に判断をお願いしたい。

事務局：指摘いただいた通り、「尊重して」に変更させていただく。

委　員：生涯学習委員会でも意見を述べさせていただいたが、この計画ができて一番重要なのは 86 頁や 87 頁による今後の計画の推進とか進行管理だと思う。スポーツでも芸術でも生涯学習でもいろいろな委員会があるが、委員会同士のつながりはどうなるのか。

87 頁の点検・評価の実施について、文章中に具体的な例がない。我々は一市民としてこの計画がどこまで進行していて、どれだけできているのか指標があちこちにありわかりにくい。法律に基づき評価するのは良いと思うが、ＰＤＣＡを回すために庁内検討会議を設置して進めるようだが、メンバーや回数や内容、時期についてはこれから決めていくと数か月後の来年度の予算に関係してくる。印西市は年間 60 億円くらいの教育予算を使っている。このような新しい計画をするときに、その 60 億円が増えるのか減るのか検討しなければならない中、メンバーなどが決まっていないと予算編成はどうなるのか気になる。

委員長：評価や時期なども含めて、それらを書き込まなくてよろしいかということで良いか。

委　員：書き込む必要はないが、今後計画ができて、それを検討以上に実施できたかどうかという部分を伺いたい。そして予算もある。最後の頁に30年度やることが書かれている。これは予算上どのように進めていくのか、体制はどのようになっているのか。それをここに書く必要はないかと思うが、どのように進めていくのか。市の予算編成の仕方がわからないため、いつ頃検討して予算決めするのかはわからない。

委員長：生涯学習の委員会でも、この話は結構出た。なかなか数量化できない部分がある。評価だから、できるだけ数量化することが原則だが、生涯学習などは特に難しい。何団体増えた、何人増えたなどは教育評価ではなく、運営評価である。教育評価を指導者がするのか、学習者がするのか、それによって評価は全く異なる。生涯学習委員会では行政の対応で年次評価があり、これをどうするのかという意見があったが、その辺りをもう一度説明していただきたい。

事務局：進行管理の点検・評価の実施について、現在、教育委員会で法律に基づき評価を実際に行っている。それは 11 頁にある評価の課題で示させていただいている。各事業等の目標指標等に基づき結果を集計している。教育委員会に報告をし、一般にも公表している。行政としては行政評価や実施計画の進行管理を毎年実施している。現時点として予算段階でこのようなリーディング施策が見えているかというと今回の予算取りの中ではこれを踏まえて行っていない。ただし、このリーディング施策に関しては、教育

委員会の評価とは別にいくつかの関連性があるものを一緒に進めていき、進行をより図るという取り組みである。それにはその時々で計画がどこまで進められているかというＰＤＣＡサイクル等を組む。そのためには、まだ初会議も行っていないが、庁内組織を今後作っていく必要がある。このフォローアップのリーディング施策については30年度の主な取り組みとしているが、予算を大きく必要とするものではない。検討していく中で必要となった場合には補正予算などで対応していく必要はあると思う。まだ、実際に教育委員会で案として出しておらず、12月に提案を予定しているため、教育委員会で決まってから進めていく取り組みであると考えている。

委員長：基本的にはこの計画を基に各部署で行っていくが、その年度内に100％できるわけではない。予算があり、優先順位もある。その中で何が必要なのかをここで長期的に計画を謳っておかなければおかしくなる。今はその作業をしている。これについてはやはり学習が必要であると思う。役所も決まった最終手続をしてからだが、団体のリーダーくらいは研修材料としてこの計画を使うくらいでなければならない。

　この計画はだれが見るのか、議員にも勉強をしてもらわなければ計画は通らない。議員にも周知が必要であり、この部分はもっと具体的に決めてもよいと思う。100％できるとは思わないが、何とか進めていただきたい。計画倒れにならないように、フォローアップの実施については重要だと思う。

委　員：ガイドが一番基本になるかと思うが、これは情報提供するのか。情報提供だけでは十分ではない。生涯学習委員会会議では情報提供だけでなく、フォローアップや相談する事業が必要ではないかとの意見があり、それを記載していただいたが他のスポーツや芸術文化でも同じではないのか。

委員長：生涯学習はやらない自由もある。いかに学ばせるか、いかに魅力的な事業をするかが重要である。そのためには情報提供をしなければ、どこで何をおこなっているかわからない。また、情報を見るだけで終わらないようにするためには相談事業が必要で、とても重要な役割のひとつである。これが抜けていたため、生涯学習の委員会で指摘し、入れていただいたわけだが、これは生涯学習に限ったことではないということでお話があった。これは配慮していただけると有り難い。

委　員：最初にアンケートを行い、アンケートも添付するとのことだったが、アンケート結果を記載するということで良いのか。資料編に盛り込む必要はないのか。結果はすべて載せた方が良いということに初めの頃になったと思うがどうなのか。

事務局：アンケート結果は、当初は記載があった。しかし、それを踏まえてだとボリュームもあり、なかなか読みづらいものになってしまった。アンケート結果については別冊で作成する。

委　員：それは理解しているが、資料として資料編には載らないのか。我々は別冊ももらっているが、市民にはその結果がわからないのではないか。アンケートを記入した市民は自分の意見がどのように反映されているのか気になると思う。

事務局：資料編表示ページの最後の項目として「アンケート結果」を加えさせていただく。

委員長：では、この計画で提出させていただくものとなるが、別紙で意見書を提出する。要望書を含めて他に要望等があれば伺いたい。

委　員：リーディング施策が印西市らしさを出すとても良い内容だった。実施する上でも実施体制と点検を良い方向で行っていただきたい。

委員長：行政は当然だが、事業や団体にこの計画を周知していただくということも、とても重要である。

委　員：再度の要望になるが、これからの 4 年間はオリンピックなど社会環境の変化は目に見えている。この計画に書いていない部分で新しい提案も出てくるかと思う。そのときは臨機応変に推進していただきたい。市民や団体が提案して、それらを取り入れていただけると隙間が埋まって良いと思う。ボリュームの関係で抜けている細かい部分も具体的に取り組んでほしい。

委　員：市民や団体からの要望や意見をどこに言ったら聞き入れてもらえるのかわからない。

委　員：現時点ではスポーツでも芸術でも委員会がある。そこが行政と市民との接点になっている。

委　員：意見を言っても議題に挙げて実行しているかどうかがなかなか伝わらない。

委員長：広報誌等で書かれている場合もある。全体が見えないという難点はあるので、市民に伝えるには工夫が必要である。

　では、フォローアップの実施、時代の変化に柔軟に対応する、計画の周知、計画の活用の 4 点を要望書にまとめて意見書を提出したい。

　議論 1 はこれで終了する。

議事（2）

～事務局、委員ともに「特になし」

以上

平成２９年度第２回印西市教育振興基本計画策定委員会の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

平成　３０　年　　１　月　　４　日

印西市教育振興基本計画策定委員会

委　員　　板　倉　　三　郎